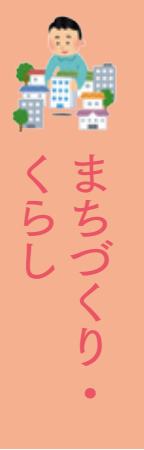


一般質問



新アリーナ整備による効果

◎ 本市独自でアリーナ整備を進めると宣言した思いは、整備を進めることで本市はどう変わるか。また、未来を担う若者にとってどのようなものになると考えるか。

▲ 市民・県民とりわけ若い世代が感動を分かち合い、岡山への誇り、愛着を育む場所として必要だ。現在、プロスポーツが求める施設基準を満たす施設がなく、このままではプロスポーツの灯が消えてしまいかねない。

アリーナ整備は、魅せるスポーツという新しいビジネスモデルを具体化し、広く経済効果をもたらすことにもつながる。岡山の拠点性や交通の利便性などから、他都市との差別化を図ることも不可避だ。また、プロスポーツが勝ったときの誇らしい気持ちやワクワク感、幸福感を醸成するためにも必要だ。

難民支援の活動を広げる

◎ 本市は、令和5年9月にUNH

32人の議員が行った質問の中から、いくつかを取り上げて要旨を掲載

※1 CRの難民を支える自治体ネットワークに参加し、日本で13番目の自治体となった。世界難民の日こいのぼりプロジェクト※2と連携した活動内容と難民支援に貢献するための計画、本市の国際社会における役割は。



世界難民の日こいのぼり

▲ 4年度から市役所本庁舎や岡山城で、特別にデザインされたこいのぼりの掲揚や、UNHCRを象徴したブルーで岡山城をライトアップするなど、難民支援の意義を広く啓発している。今後、ウクライナ避難民の方々への募金活動の継続や交流イベントも実施し、難民支援の輪が広がるよう努める。

公式LINEによる

道路損傷等の通報に対応

◎ 生活道路の不具合箇所等の令和5年度の通報件数と、町内会等からの要望件数と実施率は。

▲ 道路の損傷等の通報は5年8月から運用を開始し、5年度は北区186件、中区56件、東区51件、南区65件、合計358件あり、そのうち約7割の対応を完了している。

町内会等からの要望件数は、未対応箇所と新しい要望を合わせて、毎年度約2600件から2800件あり、年度末までに約6割の対応を完了し、4割は次年度以降に対応している。

プラスチック資源を適切にリサイクルへつなげる

◎ プラスチック資源分別回収の明解な広報や学習会の強化と継続が必要だ。現状と課題、対策は。

▲ 約9割は適切に分別されているが、1割に異物や汚れなどがあり、リサイクルの過程でトラブルの原因となる。正しい分別方法はもちろん、リサイクルの重要性や意義を十分理解して行動してもらえよう、市職員による出

一般質問は市議会ホームページのインターネット議会議中継で配信しています。



前講座や市内の小学生を対象とした環境ごみスクールを行うなど、さまざまな形で周知啓発に取り組んでいく。



異物が混入しているプラスチック資源

だれもが利用しやすい路線へ

◎ 地域公共交通利便増進事業の予算は、どの路線のどのようなものに充てるのか。財源の内訳は。

▲ 実施計画に位置付けたすべての方面を対象に、新設バス停の整備計画や車両等のデザイン検討、乗り継ぎ空間の概略設計等を実施する経費、令和7年度下半期からの運行開始を目指す西大寺方面、庭瀬方面、日赤病院と岡南を結ぶ支線で使用する小型車両4台の調達経費を計上している。財源は、国の社会資本整備総合交付金を活用する。

※2 【世界難民の日こいのぼりプロジェクト】

世界の難民の子どもたちの保護や幸せを願い、難民支援の輪の拡大を啓発するため、6月20日の世界難民の日に伴せ、特別にデザインされたこいのぼりを掲揚する

※1 【UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）】

第二次世界大戦後の昭和25年、避難を余儀なくされたり、家を失ったりしたヨーロッパ人を救うために設立。現在は世界中の難民の保護や支援に取り組む

空き家を有効活用する仕組み

○ 令和6年6月より開始した集落維持のための20戸連たん制度^{※3}は、空き家を有効活用することも期待できる。町内会からは空き家を把握し、保全の協力もできるといふ意見もある。不動産業者と本市、町内会が連携して空き家を利活用できる仕組みがつくれないか。

△ 空家特措法の改正施行により、民法、建築基準法などの専門知識を有したNPO法人や社団法人等を空き家の管理や活用に向けた「空家等管理活用支援法人」^{※4}に指定できることとなった。

現在、指定条件等を検討しており、法人が指定されれば町内会と連携し、20戸連たんの対象地域も含めた空き家の用途変更による利活用の促進が見込まれる。



岡山市場の将来構想を策定

○ 開場から40年以上が経過し、老朽化や防災面などに課題がある市場が立ち上げる岡山市場未来会議の目的、検討項目などは。



にぎわう市場感謝デー

△ 市場の将来像を描くことを目的に、持続可能性、地域経済への影響、強化すべき市場機能、観光資源としての魅力向上により愛される市場の実現などを検討する。

令和7年度末の将来構想案の策定に向け、市場流通分野や都市計画分野の学識経験者、市場関係者、金融業者などを会議構成員とし、現状分析や課題を洗い出し幅広い議論を行う。さらに、分科会において議論を深め、他市場視察も行う予定。

被災時の市民生活を守る対策

○ 集中豪雨や大震災に備えた対策が重要だ。本市の下水道管の耐震化や、液状化によるマンホールの浮き上がり対策の現状と今後の考え方は。

△ 避難所や医療施設等から排水を受

ける管路や、緊急輸送路に埋設している管路などから流下機能、交通機能の確保に向け耐震化対策を進めている。具体的には、整備時期が早い中心市街地の重要な管路から耐震化工事を進めており、周辺部の耐震調査も着手した。

マンホール浮上対策は、緊急輸送路等に設置しているマンホール約6700基のうち液状化の危険性が高い367基を進めており、令和5年度末までに131基が対策済み。これらの対策は、被災時の市民生活の確保に極めて重要であり、引き続き計画的に進める。

地域農業を守る計画を策定

○ 令和7年3月に策定する地域計画^{※5}は、地域農業を守るスタート地点である。策定後の進行管理や課題解決をどのように行うのか。

△ 地域の農地を維持し、発展させるためのプランとなる地域計画は、一度策定して終わりではなく、地域農業の実態にに応じて随時更新し、完成度を高めていくことが重要だ。例えば計画策定後に受け手がいない農地で受け手がみつかった場合、地域の話し合いにより農地利用のあり方を変更するなど、随時計画の変更や進捗管理も行う。

また、地域で生じた課題にも地元の意向を聞き、農地中間管理機構^{※6}や農業

委員会等と協力しながら課題解決に向けて取り組む。

夜間イベントで

岡山城周辺の魅力を発信

○ 宿泊客を増加させるため、岡山城周辺での夜間イベントの実施や、夜間景観の魅力拡大への新たな取り組みはあるか。

△ 岡山城では、春・夏・秋に岡山後楽園の幻想庭園と連携して、ライトアップイベントの烏城灯源郷を実施している。令和6年の夏は、不^{あかりの}明門をミニ待屋敷にするほか、天守内でマジックショーや落語、隠し文字探しイベントなどを同時開催する予定。今後も宿泊客増加につながる夜間イベント等の充実に取り組んでいく。



烏城灯源郷

※3 【20戸連たん制度】人口減少が著しい市街化調整区域のうち、敷地相互間が55m以内ごとに20戸以上の建築物が集まっている場合に、自己用住宅の開発を許可する制度

※4 【空家等管理活用支援法人】空き家等の所有者等に対し、空き家等の管理や活用方法に関する情報提供、相談、その他適切な管理や活用を図るための援助業務などを行う

※5 【地域計画】農業者や地域の方との話し合いにより策定される地域の将来の農地利用の姿を明確化した設計図

※6 【農地中間管理機構】都道府県、市町村、農業団体等が出資して組織される法人。農地を貸したい人から農地を借り受け、耕作を希望する人に農地を貸し付ける事業を行う

内水氾濫防止対策を進める

市街化が進み農地が減ること
水田の保水力が減少し、ゲリラ豪雨
等による内水氾濫が懸念される。大
雨の際にポンプ場などの下水道施設
へ雨水を取り込み、浸水からまちを
守るゲートが用水路などに設置され
ているが、ゲートの遠隔操作^{※7}など、
浸水安全度を高める取り組みの効果
はどうか。また、今後の遠隔操作化
の予定は。



遠隔操作化が進むゲート

ゲートの操作を現地で行う地元操
作員の高齢化や後継者不足により継続
的、安定的な操作体制の維持が課題と
なる中、遠隔操作化は、操作員の大幅
な負担軽減や迅速な開閉に大きな効果
を上げている。本市が管理するゲート
35カ所のうち25カ所で遠隔操作化を行

っており、令和7年度までにすべて完
了予定。



**若者へのアンケート調査から
みえた課題**

令和5年に若者を対象に実施し
た4件のアンケート調査^{※8}の結果は、
どのような傾向があったか。また、
課題をどう認識しているか。

中高生世代の意識調査では、晩婚
化の傾向や共働きを希望する割合が高
い。若者や子育て世帯の調査では、理
想とする子どもの数と現実のギャップ
が生じ、経済的負担や仕事と子育ての
両立などの課題が見えた。

また、子どもの生活実態調査では、
ひとり親世帯の多くが経済的に困難な
状況にあることが浮き彫りになった。
希望する誰もが安心して子どもを生
み育て、子どもの将来が貧困など生ま
れ育った環境に左右されないよう、必
要な支援を講じていきたい。

ヤングケアラー^{※9}の認知度を向上

本市が把握しているヤングケア
ラーの人数は、令和5年度に小学5

年生と中学2年生およびその保護者
に対し行ったアンケート結果では、
約7割の子どもがヤングケアラーと
いう言葉を知らない、もしくは理解
できていない状況だ。認知度を上げ
る新たな施策や取り組みは。

5年度末時点で53人と把握してい
る。4年度からは毎年、市内小・中・
高等学校等の全児童・生徒を対象にヤ
ングケアラーに関するチラシを配布し、
周知啓発に努めている。今後はチラシ
の内容を改善し、学年に応じた分かり
やすいものを作成するなど、さらなる
認知度向上を図る。

**潜在ニーズを踏まえた
待機児童ゼロへの取り組み**

放課後児童クラブは、待機児童
以外にも申し込みを断念しているな
どの掘り起こされてない潜在需要
があり、申請者増につながっている
と考える。今後の展望や取り組みは。

アンケートの数字で見ると、平日
に子どもの世話をする人がいないと答
えた人のうち、児童クラブを利用して
いると答えた人は85%であり、15%が
潜在ニーズと考える。労働力不足が叫
ばれている昨今、児童クラブのニーズ
は今後も高まると見込まれる。
現在、施設の確保や人材確保を図っ

ており、今後さまざまな施策を検討
し、保護者が自由に働けるよう、待機
児童ゼロに向けて取り組んでいく。



受け入れ拡大が進む放課後児童クラブ

**夜間中学入学までの
スケジュール**

後楽館中学校夜間学級のスタ
トまで1年を切った。入学式までど
のような日程か。

令和6年7月から9月に入学説明
会を3回実施する。10月から11月の期
間に入学願書を受け付け、出願者と面
談を行い、12月に面談結果を通知する。
7年3月には入学対象者説明会で学校
生活や入学式の説明を行い、4月に入
学となる。

※10【アンケート】
令和6年1月に実施し
た子ども・子育て支援
に関するアンケート

※9【ヤングケアラー】
本来大人が担うと想定され
ている家事や家族の世話を
日常的に行っている子
どものこと

※8【4件のアンケート調査】
子ども・子育て支援に関するアンケート、
若者の意識に関するアンケート、
中高生世代の意識に関するアンケート、
岡山市子どもの生活実態調査

※7【遠隔操作】
現地に行かず、持ち運び可能な
タブレット端末を操作し、現地
の状況を確認しながら、速やか
なゲートの開閉操作を行うこと